

基準密度計算書

混合物の種類 細粒度キヤップアスコン

基準密度 2.378(g/cm3)

試験者 現場 太郎

測定日時	供試体番号		空中重量	水中重量	表乾重量	容積	密度	空隙率
			(g)	(g)	(g)	(cm3)	(g/cm3)	(%)
			B	C	D	E = D - C	F = B / E	G = (1 - F / A) × 100
	1		1158.9	672.7	1159.2	486.5	2.382	
A・M	2		1162.0	673.2	1162.3	489.1	2.376	
6/16	3		1147.4	665.2	1147.7	482.5	2.378	
	4							
	5							
	平均						2.379	3.800
	1		1163.3	674.4	1163.6	489.2	2.378	
P・M	2		1154.0	669.5	1154.2	484.7	2.381	
6/16	3		1157.7	670.5	1158.0	487.5	2.375	
	4							
	5							
	平均						2.378	3.800
	1		1149.8	666.9	1150.0	483.1	2.380	
A・M	2		1154.6	668.5	1154.9	486.4	2.374	
6/17	3		1150.3	666.5	1150.6	484.1	2.376	
	4							
	5							
	平均						2.377	3.90
	1		1156.1	669.8	1156.4	486.6	2.376	
P・M	2		1164.5	675.7	1164.8	489.1	2.381	
6/17	3		1146.8	664.9	1147.0	482.1	2.379	
	4							
	5							
	平均						2.379	3.80
	1							
	2							
	3							
	4							
	5							
	平均							

備考 基準密度 = 2.378 g/cm3 理論密度 = 2.474 g/cm3

混合物の基準密度は、現場配合により製造した当初の2日間の混合物から午前、午後各1回3個のマーシャル試験用供試体を作成し、その密度の平均値を基準密度とする。

基準密度及びマーシャル試験

混合物名 細粒度キャップアスコン

平成20年06月16日

アスファルト密度A = 1.034 (g/cm³)

力計の係数B = 10.4

試験者

現場 太郎

供試体番号	アスファルト量 (%)	供試体平均厚 (g)	空中重 (g)	水中重 (g)	表乾重 (g)	容積 (cm ³)	密度		アスファルト容積 (%)	空げき率 (%)	骨材間げき率 (%)	飽和度 (%)	安定度		フロー値 (1/100cm)	備考	
							実際 (g/cm ³)	理論 (g/cm ³)					力計の読み (K/N)	安定度 (K/N)			
						-	/		$\frac{\times}{A}$	$(1 - \frac{\times}{\times}) \times 100$	+	$\frac{\times}{100}$		$B \times \times$ 0.0098			
1	A・M 6.8	6.10	1158.9	672.7	1159.2	486.5	2.382						90.0	936.0	37.0		
2		6.20	1162.0	673.2	1162.3	489.1	2.376						92.0	956.8	32.0		
3		6.00	1147.4	665.2	1147.7	482.5	2.378						93.0	967.2	35.0		
4																	
5																	
	平均						2.379	2.474	15.645	3.800	19.445	19.45		953.3	34.7		
1	P・M 6.8	6.00	1163.3	674.4	1163.6	489.2	2.378						94.0	977.6	34.0		
2		6.10	1154.0	669.5	1154.2	484.7	2.381						90.0	936.0	35.0		
3		6.20	1157.7	670.5	1158.0	487.5	2.375						92.0	956.8	36.0		
4																	
5																	
	平均						2.378	2.474	15.639	3.800	19.439	80.45		956.8	35.0		

基準密度 = 2.378 g/cm³ 理論密度 = 2.474 g/cm³

混合物の基準密度は、現場配合により製造した当初の2日間の混合物から午前、午後各1回3個のマーシャル試験用供試体を作成し、その密度の平均値を基準密度とする。